

# 2020 CSR REPORT

極東開発グループ CSR 報告書



# CONTINUE TO CREATE A SUSTAINABLE SOCIETY

## つづく社会を、つくりつづける

人々の日常を支え、環境の基盤をつくり、街を暮らしやすくする。

国内をはじめ、世界規模で社会のインフラ整備に向けて取り組んできた私たちは、いま、その事業活動によるSDGsの達成と持続可能な社会の実現に注力し、これを全社的な重要課題として掲げています。

様々な技術や製品により、あらゆる場面で人々の暮らしを支える。

極東開発グループはその実績を活かし、これからも皆様に貢献する“つづく社会を、つくりつづける”会社として、未来を創り続けて参ります。

## 「変化に柔軟に適應できる、 グローバルな企業へ」

### 編集方針

本報告書では持続可能な社会の実現に向けた、極東開発グループの取り組みを今後の計画とともに報告しています。

対象組織：極東開発工業株式会社を中心に、国内外の関係会社を含めた極東開発グループの活動を報告しています。

対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日

(一部記事には2020年4月以降の内容を掲載しています。)

対象読者：極東開発グループに関わる全てのステークホルダーの皆様

発行日：2020年9月

参考ガイドライン：ISO26000ガイドライン、環境省「環境報告ガイドライン(2018年度版)」、経済産業省「価値協創ガイダンス」

### 情報開示ツールの構成

#### □CSR情報



CSR報告書(本冊子)  
当社グループの重点課題について具体的な取り組み内容を報告



CSRウェブサイト  
<http://www.kyokuto.com/csr/>  
当社グループのCSR活動情報の概要を報告(基本方針などはこちらに掲載)

#### □IR及びコーポレートガバナンス情報

IRレポート 有価証券報告書 コーポレートガバナンス報告書

ホームページから以下の資料がダウンロードできます。

<http://www.kyokuto.com/>

- 会社案内 ●CSR報告書 ●IRレポート
- 有価証券報告書 ●コーポレートガバナンス報告書
- 各種製品カタログ ●各種広報資料

## CONTENTS ——— コンテンツ

### トップメッセージ2020 03

### ① 極東開発グループの基盤 05

1. 持続的成長の歴史 05
2. グループの資本 07
3. 成長プロセス 09
4. リスクと機会 11
5. ステークホルダーとの対話/外部評価 12
6. 社外取締役メッセージ 13

### ② ビジョン・成長戦略 14

1. 極東開発グループとSDGs 14
2. 中期経営計画 17

### ③ 2019トピックス 19

### ④ 地域 住み続けられる「まちづくり」 21

1. 各事業概要 21
2. 顧客満足の追求 23
3. 地域への参画 25

### ⑤ 環境 地球環境に配慮した「ものづくり」 27

1. 環境関連データ 27
2. 気候変動への中長期対応 28
3. 脱炭素社会に向けて 29
4. 循環型社会に向けて 30
5. 自然共生社会に向けて 30

### ⑥ 人 一人ひとりが尊重される「社会づくり」 31

1. 人材関連データ 31
2. 働きがいのある職場づくり 32
3. 従業員の健康管理 34
4. ものづくりにおける人権配慮 34

## 時代を超えて 広く社会から選ばれる 企業を目指して

トップメッセージ 2020

# TOP MESSAGE 2020

2020年9月  
極東開発工業株式会社  
代表取締役社長

布原達也

### 予測困難な時代において

世界中に広がった新型コロナウイルスは、全世界を混乱に陥れ「withコロナ」「新しい生活様式」という言葉が生まれるほどに人々の生活を変えてしまいました。当社グループでも従業員の安全を第一に確保しながら業務効率化をすすめるべく、テレワークやテレビ会議など新たな試みを推進しています。

また最近、想定を超える降水量が常態化しつつあり、集中豪雨や洪水の被害が深刻化しています。「令和2年7月豪雨」でも、九州地方を中心に甚大な被害をもたらしました。

このような感染症や気候変動に関する脅威の背景には、従来の「経済優先の体制」があるといわれています。SDGsでも述べられていますが、地球の持続可能性は人類にとっての最重要課題です。

当社グループは社会の一員として、事業継続リスクに備えるだけでなく、変化する社会の状況をチャンスとして捉え、持てる知恵と技術で持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

### 総合力を生かしたものづくり

当社グループは創業から一貫してものづくりに携わってきました。事業の根幹は「建設」「物流」「環境」「パーキング」といった主にまちづくりに関する分野で、その成長は日本の発展と軌を一にしてきたともいえます。

しかし今、このまちづくりをすすめる上で、交通インフラの老朽化や少子高齢化による人手不足など様々な壁が立ちだかりつつあります。

私たちはこの壁を乗り越えるために、これまでに培ってきた技術やノウハウをフル活用していきます。先行きが不透明な状況下だからこそ、営業・生産・サービス・技術が一丸となり総合力を発揮することで社会に価値を提供し続けることができると確信しています。

必要とされる存在であり続けるために  
製品を通じたまちづくり以外にも、当社グループは地域

の一員としてあらゆる活動を行っています。

地域の学生や住民の方を招待する「工場見学会」の開催<sup>※1</sup>や、地域イベントへの出展や協賛<sup>※2</sup>、地域の障がい者の方へ雇用の場を提供する農園の開設<sup>※3</sup>など様々な取り組みを積極的に推進しています。

「小学生の頃に工場見学会で訪れた極東開発グループで働きたい」と入社を希望してくれる学生もおられ、改めて当社グループが地域社会に根付いていることを実感しています。

これからも、あらゆるステークホルダーとより良い関係を築き、相互発展していくことで企業市民としての責任を果たして参ります。

### 持続的で、 いつの時代も社会から選ばれる KYOKUTOへ

いかなる状況下にあっても、確実に課題を解決し期待に応えていくことが私たちメーカーの使命です。そのためにも、日頃からステークホルダーと積極的にコミュニケーションをとり、機敏な対応力や体制づくりをすすめておく必要があります。

「いかなる状況下でもお客様、また社会に対して価値あるものを提供し続ける」、持続的でいつの時代も社会から選ばれるKYOKUTOこそが私たちの目指す姿です。

※1 工場見学会…p.26参照 ※2 地域イベント…p.25参照  
※3 障がい者雇用…p.32参照



# 極東開発グループの 基盤

## 1-1 持続的成長の歴史

当社グループは社会のあらゆるニーズを捉え、常にその発展に貢献する製品を提供してきました。今後も時代の変化に柔軟に対応し、持続可能な社会の実現に貢献し続けます。



### ○ 関係会社情報

#### 特装車事業

国内拠点	海外拠点
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本トレクス株式会社 特装車の製造、販売、修理及び部品販売</li> <li>株式会社エフ・イ・オート 特装車の修理及び部品販売、中古トラックの販売</li> <li>振興自動車株式会社 特装車の製造、販売、修理及び部品販売</li> <li>北陸重機工業株式会社 鉄道車両・特装車の製造、販売、修理及び部品販売</li> <li>井上自動車工業株式会社 特装車の修理及び部品販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>極東特装車貿易(上海)有限公司(中国) 特装車の部品調達</li> <li>極東開発(昆山)機械有限公司(中国) 特装車の製造、販売、修理及び部品販売</li> <li>MITHRA KYOKUTO SPECIAL PURPOSE VEHICLE COMPANY PRIVATE LIMITED(インド) 特装車の製造、販売、修理及び部品販売</li> <li>PT. Kyokuto Indomobil Manufacturing Indonesia(インドネシア) 特装車の製造</li> <li>PT. Kyokuto Indomobil Distributor Indonesia(インドネシア) 特装車の販売</li> </ul>

#### 環境事業

極東サービスエンジニアリング株式会社  
 環境整備機器及び施設の修理、運転  
 極東サービスエンジニアリング北海道株式会社  
 環境整備機器及び施設の修理、運転  
 株式会社モリプラント  
 環境設備プラントの設計及び施工、メンテナンス

#### 不動産賃貸等事業 (パーキング事業他)

極東開発パーキング株式会社  
 立体駐車装置の製造、販売及び修理、駐車場の経営(コインパーキング)  
 株式会社エフ・イ・イ  
 損害保険代理業

### 経済成長とともに事業を拡大

- 1964年「パワーゲート®」発売  
省力化と荷役作業の負担を軽減しました。
- 1966年「スクイズクリート®」発売  
コンクリート打設の生産性が一気に向上しました。
- 1967年「ジェットバック®」発売  
粉体を効率的に運搬できるようになりました。



### 深刻化するごみ問題に着手

- 1970年 [リサイクルプラント事業への参入]  
「極東・トレマッシュ®ごみ破砕機」発売  
粗大ごみを破砕することで埋立や焼却が容易になりました。またリサイクルなど再資源化の推進に貢献しました。
- 1972年「プレスバック®」発売  
回収したごみを強い力で圧縮することで、減容化と輸送効率の向上を同時に実現しました。



### 交通課題の解決に向けて

- 1991年[機械式立体駐車装置事業への参入]  
多段式立体駐車装置「レントウパーク®」発売  
都市の駐車場問題を解消するために、特装車で培った技術を生かして立体駐車装置を開発しました。



### 秩序ある社会に向けた新たなビジネス

- 2000年 [コインパーキング事業への参入]  
コインパーキング「P.ZONE®」展開  
増え続ける自動車保有台数、用途の定まらない遊休地、違法駐車問題、これらの解決に向け新たにコインパーキング事業をスタートしました。



## 1-2 グループの資本

### ○ 財務情報ハイライト **財務資本**

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



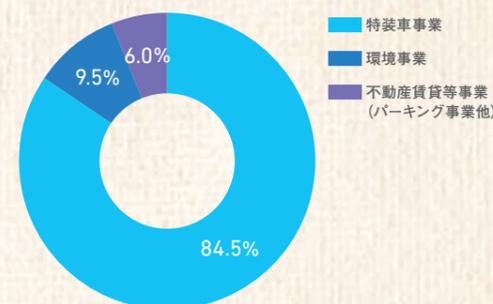
経常利益 (単位:百万円)



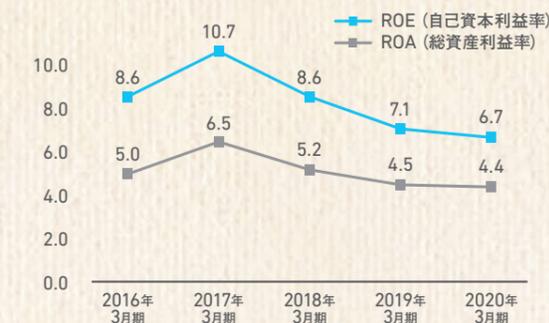
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



セグメント別売上構成比



ROE/ROA (単位:%)



### ○ 極東開発グループの従業員数 **人的資本**

セグメントの名称	従業員数 (名)
特装車事業	2,376
環境事業	396
不動産賃貸等事業 (パーキング事業他)	111
<b>合計</b>	<b>2,883</b>

※2020年3月末時点

### ○ 研究開発活動 **知的資本**

当社グループの研究開発は、新規製品、新技術の開発、新分野の開拓、既開発製品の改良を主体とし、極東開発工業及び日本トレクス、極東開発パーキングが担当しています。

研究開発費：1,479百万円  
産業財産権 出願件数：50件  
※2019年度実績

### ○ 諸団体との連携 **社会・関係資本**

各分野における情報収集や地域社会への貢献を目的として、多くの団体に加盟、また連携し活動をすすめています。

加盟団体数：170団体 (極東開発工業単体)  
※2020年3月末時点

### ○ 水、土地、森林などに関する影響 **自然資本**

当社グループの事業活動における、自然資本への依存度ならびに及ぼす影響度は低いと判断しています。また主要生産拠点において、洪水や土砂災害などの自然災害発生時に、環境へ及ぼす汚染などのリスクも低いと判断しています\*。

※自治体発行のハザードマップを用いた社内基準による評価

### ○ 国内の生産拠点 **製造資本**



中核事業への経営資源の集中を基本戦略として、生産能力の合理化、最適化及び品質改善を目的とした設備投資計画に基づき投資を行っています。

設備投資額 (特装車事業)：3,626百万円  
※2019年度実績

### 1-3 成長プロセス

当社グループは以下の成長プロセスを踏まえ、社会課題の解決 (SDGsの達成)と企業価値向上の両立に取り組んでいます。

#### 会社としての基本的な考え方

経営方針、社是、各種方針  
など ⇒ホームページ参照

#### [マテリアリティの特定]

⇒p.15参照「極東開発工業 SDGs宣言」  
「リスク・機会の評価」の結果をもとに当社グループが優先的に取り組むニーズと期待(マテリアリティ)を特定する。  
特定の際は、「グループの資本」を考慮にいれて「会社としての基本的な考え方」に整合する項目を特定する。

#### [リスク・機会の評価]

⇒p.11参照  
ステークホルダーのニーズと期待に関するリスクと機会が、社会及び当社グループ(サプライチェーン含む)に与える影響度を評価する。

#### アクションの特定

### 社会課題 (SDGs)

SDGsの達成を目指す。



地域インフラの整備、ダイバーシティの実現、地球温暖化の防止、生態系の保全、不正防止など

#### グループの資本

⇒p.7~p.8参照

- ・財務資本
- ・製造資本
- ・知的資本
- ・人的資本
- ・社会・関係資本
- ・自然資本

#### [アウトカム]

アウトプットによって得られた成果。  
収益や評判など。

#### [ステークホルダーのニーズと期待]

お客様

従業員

お取引先様

株主・投資家

地域社会

#### [年度計画]

中期経営計画の目標達成に向けてバックキャストの視点で年度ごとの取り組み事項を策定する。

#### アクションの実行

#### [アウトプット]

事業活動を通して生み出された結果。  
製品やサービスなど。

### 1-4 リスクと機会

当社グループは社会課題を解決し、ステークホルダーの期待に応える価値を提供し続けていくために、事業に大きな影響を及ぼしうる重要なリスクと機会を特定し、取り組みをすすめています。

社会課題	バリューチェーンのフェーズ	関連するステークホルダー	リスク	機会	( )内は主な取り組み
3 持続可能な消費生活	調達・販売	従業員・お取引先様	感染症による健康被害		・感染症対策(テレワークの推進、時差出勤の推奨、テレビ会議・WEB会議の導入)
	操業・販売	従業員	危険または劣悪な作業環境による傷病や健康被害		・労働環境の整備(労働安全衛生に関する取り組み、工場内空調設備の拡充)
4 持続可能な教育	操業	地域社会		ものづくりへの興味・関心の喚起	・次世代の育成(工場見学会の開催、インターンシップ制度の採用)
5 エンパワーメント	操業・販売	従業員	ジェンダー差別による士気及びパフォーマンスの低下と離職者の増加	ジェンダー格差のない職場実現によるパフォーマンスの向上	・女性活躍の推進(女性活躍推進分科会の設置、出産育児見及び介護に関する制度の利用促進)
7 持続可能なエネルギー	操業・販売・製品の使用	社会全般		太陽光発電事業ならびに再生可能エネルギー分野に関する製品開発を通じた温室効果ガスの排出抑制	・太陽光発電事業 ・林業分野での研究開発 ・バイオマスエネルギー分野での研究開発
8 持続可能な労働	操業・販売	従業員	不公正な人事評価による士気及びパフォーマンスの低下と離職者の増加	公平・公正かつ魅力ある評価制度による人的パフォーマンスの向上ならびに人材の定着	・やりがい形成(ワーク・ライフ・バランスの推進、人事制度の見直し、就業管理システムの更新)
	操業・販売	従業員	過重労働による怪我の発生や心身喪失、運動不足による疾病、ハラスメントによるメンタルヘルスの不調		・健康経営の推進 ・ハラスメントの防止(ハラスメントに関する教育、通報・相談窓口の設置)
9 持続可能な都市とコミュニティ	操業・販売	従業員	定年退職など高い能力をもった従業員の退社に伴う技術レベルの低下	自動化の推進による製品のQCD <sup>®</sup> の安定化 ※QCD…品質・コスト・納期	・技能伝承(技能検定の実施、作業手順のライブラリ化) ・自動化の推進(溶接ロボットの拡充)
	操業・販売	従業員		ダイバーシティへの対応強化による多様な人材の獲得	・ダイバーシティ経営(女性活躍推進分科会の設置、多言語化への対応、障がい者雇用の推進)
10 持続可能な社会	操業	地域社会		地域活性化への支援	・地域イベントへの出展及び協賛 ・コンビニ運営
				建設系車両の製造販売による国土整備及び防災インフラ拡充への支援	・特装車事業(建設系車両の製造販売)
	製品の使用	お客様		物流系車両及び荷役省力化装置の製造販売によるドライバーの人手不足解消及び物流の合理化促進	・特装車事業(物流系車両・荷役省力化装置の製造販売)
11 持続可能な資源	製品の使用	お客様		ごみ収集車及びごみ破砕機など3Rのための車両・施設の製造販売による循環型社会の形成	・特装車事業(環境系車両の製造販売) ・環境事業(リサイクル施設・機器の製造販売、メンテナンス、運転・管理)
				立体駐車装置の製造・据付・販売及びコインパーキングの運営による都市における交通課題の解決・緩和	・不動産賃貸等事業(立体駐車装置の製造・据付・販売、コインパーキングの運営)
			調達	お取引先様	サプライチェーン上における人権侵害・環境汚染・健康被害・法令違反などの不祥事及び災害などによる資材調達の停止または停滞
12 持続可能な消費生活	製品の使用	お客様	製品の不具合及び誤操作など誤った使用による怪我、製品の損壊、騒音・振動及び汚染物質の流出拡散による住環境ならびに生物多様性への悪影響	・正しい製品利用とアフターメンテナンス(製品講習会の実施、指定修理工場への教育、お客様相談窓口の設置、リコール情報の公開)	
13 持続可能な環境	製品の廃棄	全て	埋立て廃棄物の増加	製品や部品の3R促進による循環型社会の実現	・製品の3R(自社の3R設計基準による設計・評価)
	全て	全て	サプライチェーン上での環境汚染ならびに温室効果ガスの過剰排出		・温室効果ガス排出抑制(スコープ3によるCO <sub>2</sub> 排出量の把握、ISO14001の運用)
16 持続可能な社会	原材料・調達	地域社会	紛争鉱物の利用による紛争への加担		・紛争鉱物の排除(調査及び管理)
17 持続可能な消費生活	販売	地域社会	兵器などへの流用・転用可能製品の輸出による紛争への加担		・輸出品の安全保障(自社基準による運用)
	全て	全て	ニーズ及び期待の把握不十分による経営理念ならびに経営目標の未達成	ニーズ及び期待の経営への適切な反映による自社及び社会の持続的発展	・ステークホルダーとの積極的な対話

### 1-5 ステークホルダーとの対話 / 外部評価

#### ○ ステークホルダーとの対話

当社グループの主要なステークホルダーは、「お客様」「従業員」「お取引先様」「株主・投資家」「地域社会」などです。ステークホルダーとの対話を通じて、それぞれの課題や期待に応えられるよう取り組みをすすめています。

ステークホルダー	コミュニケーションの事例	頻度	企業活動への反映	主な関連ページ
お客様	各種講習会	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築	p.23~p.24
	お客様相談窓口 リコール情報の公開		より良い製品づくり	
従業員	各種研修・評価面談 従業員意識調査	随時	職場環境の改善、労務・人事施策の見直し	p.32~p.33
	団体交渉・労使協議会	年10回以上	労使関係の強化 働きやすくやりがいのある職場づくり	
お取引先様	各種会議、研修 取引先評価	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築	p.24
	定時株主総会 決算説明会	年1回		
株主・投資家	「有価証券報告書」及び「四半期報告書」発行 「IRレポート」発行	年4回 年2回	対話を通じた経営の質の向上	ホームページ
	イベント・工場見学会の開催 地域イベントへの参画 NPOとの協働	随時	相互理解の促進、より良い関係の構築 社会ニーズの把握	p.25~p.26 p.8・p.16
地域社会	経済・業界団体、地域団体への参加			

#### ○ 外部評価

##### ESG/SDGs評価

極東開発工業は、株式会社三井住友銀行「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーション契約を締結しました。

評価結果では、特に「事業活動における環境負荷低減の取り組み」「顧客に対する誠実さ」「従業員への配慮」の取り組みについて非常に高い水準であると判断され、ESG/SDGs全般に関する情報開示を含め総合評価ランクAと評価されました。

##### 健康経営

日本トレクスは、経済産業省と日本健康会議が選出する「健康経営優良法人2020」に認定されました。

今後も従業員が心身ともに健康で、いきいきと働くことができる職場環境づくりに努めていきます。



##### ISO認証

当社グループでは、品質マネジメントシステム(ISO9001)と環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証を取得しています。ISOに基づくマネジメントシステムを適用することで、品質ならびに顧客満足度の向上と環境保全に努めています。

### 1-6 社外取締役メッセージ



社外取締役 木戸 洋二

#### SDGs達成に向けてさらなる深度化・具体化を

当社グループは、特装車事業、環境事業、不動産賃貸等事業など、社会インフラを下支えする事業を展開しており、これらの事業活動そのものが様々な社会課題の解決に貢献してきたといえます。そしてこれは2015年にSDGs(持続可能な開発目標)が国連で採択されたことにより、社会・環境などの視点で評価することがより重要かつ明確になりました。当社グループでは具体的に①【地域】住み続けられる「まちづくり」、②【環境】地球環境に配慮した「ものづくり」、③【人】一人ひとりが尊重される「社会づくり」といった課題をSDGsと紐付けし、これらの目標達成と企業の経済的価値の追求を両立させ、中長期的な企業価値の向上を図っていくことを目指しています。また、ゴール実

現に向けて取り組む過程で、従業員の働き方においてもSDGsの視点を意識付けることにより、モチベーションを高めていく努力をしています。

今後は、投資リターンとともに社会・環境に対するリターンの評価が可能となれば、より明確にESG投資にも応えられるため、取り組み内容のより具体的な目標設定が求められると考えます。

新型コロナウイルスのパンデミックにより世界の社会経済システムは大きく毀損し、その収束はまだまだ見通せず、当社グループにおける事業環境も厳しい状況になっていくと思われま。一方で、このような状況に直面している今こそ、当社グループの方向性や業務体制を見つめ直すチャンスであるといえます。既に実施されているテレワーク・テレビ会議・WEB会議・出張の抑制などの働き方や社内システムの見直しにとどまらず、中長期的な企業価値・社会価値向上のために、SDGs達成プロセスのさらなる深度化・具体化の検討をすすめていく良い機会と捉え、これらに取り組んでいくべきだと考えます。



社外取締役 道上 明

#### 新型コロナウイルス感染拡大による経営環境の変化について思うこと

昨今の新型コロナウイルスの感染拡大は、我々にとって全く予想できなかったことであり、当社グループの経営環境に厳しい変化をもたらすものであります。いうまでもなく、企業経営とはステークホルダーをはじめ、社会の人々のために行われるものであり、単に企業の利益だけを求めてはなりません。コロナ禍による厳しい経営環境においてもそれは同じであり、これまで同様強固なガバナンスを維持し「社会の人々のために」という当社

グループらしい経営をしていかねばなりません。また新型コロナウイルスは企業活動に変化をもたらします。例えばテレビ会議やWEB会議。このような省力化につながる取り組みは、継続すると企業としての力を蓄えることにもつながります。今はまさにそのような時期ではないでしょうか。そして、そのことによってガバナンスが低下しないように注意しつつ、より発展的な企業活動を推進していきたいと考えています。これは海外での事業運営においても同様です。

新型コロナウイルスの問題はしばらく続きそうです。様々な経営リスクが存在する現代の企業経営において、これまで同様、研究を怠らず準備を重ねることでこの難局を乗り越え発展していくべきだと考えます。

## ビジョン・成長戦略

### 2-1 極東開発グループとSDGs

SDGs(持続可能な開発目標)はあらゆる社会課題の解決に全世界が取り組み、「誰ひとり取り残さない世界」を実現させるための17の目標です。当社グループはSDGsの達成に向け、社会の一員として積極的に役割と責任を果たしていきます。

#### ○ SDGsに対して影響の大きい取り組み

社会課題の解決につながる当社グループの取り組みを、バリューチェーンに沿って特定しています。事業を通じてこれらに重点的に取り組むことで、SDGsの達成と持続可能な社会づくりに大きく貢献していきます。



○ 極東開発工業 SDGs宣言



2020年4月1日、極東開発工業はSDGsの達成に向けた取り組みを事業や様々な活動を通じてより積極的に推進していくために、「極東開発工業 SDGs宣言」を表明しました。

当社グループは、「技術と信用を重んじ、一致協力して、企業の生々発展に努力し、広く社会に奉仕する」を経営理念として掲げています。

この経営理念に基づき、「地球」「環境」「人」に関わる社会課題の解決と企業の経済的価値の追求を両立させ、「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成に向けて積極的に取り組んで参ります。

取り組み内容とSDGs項目



【地域】 住み続けられる「まちづくり」

- ・災害に強い都市基盤の整備に貢献します。
- ・効率的な輸送や省力・省人化を実現し、あらゆる分野で人手不足解消に貢献します。
- ・資源リサイクルの基盤づくりをすすめ、循環型社会の形成に寄与します。



【環境】 地球環境に配慮した「ものづくり」

- ・サプライチェーンの全ての段階で、環境負荷低減に努めます。
- ・製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)や省エネを推進し、環境に配慮した製品づくりをすすめます。



【人】 一人ひとりが尊重される「社会づくり」

- ・全ての従業員がやりがいと働きがいを持って、能力を最大限発揮できる職場環境の実現に取り組みます。
- ・全てのお客様に配慮した、安全かつ誰もが使いやすい製品づくりをすすめます。
- ・サプライチェーンの全ての段階において、人に配慮したものづくりをすすめます。



○ SDGsに関する啓発

従業員一人ひとりが、日々の業務や日常生活でSDGsに取り組めるよう、様々な啓発活動をすすめています。

「My SDGs2020 (私のSDGsアクション)」の募集  
極東開発工業では、従業員を対象に「My SDGs2020 (私のSDGsアクション)」として「2020年度にチャレンジする、地域・環境・人に優しい行動」を募集しました。次年度に達成率を測り、SDGsへの貢献度を集約します。

提出人数：861名(提出率76.0%)  
提出されたSDGsアクションの総数：1,621個

SDGsアクションの一部

- ・コミュニケーションを活性化し、皆で課題解決できる職場環境をつくる。
- ・水筒を持参し、ペットボトルの飲料水を購入しない。
- ・効率の良い営業活動を実施し、車の走行距離を抑える。
- ・主体的に家事を行い、夫婦間のジェンダー格差を無くす。
- ・食べ残しをしない。子供にもそれを教育する。
- ・社会課題へ積極的に取り組む企業の商品を選ぶ。

各種広報物の作成・発行

従業員、お取引先様、地域の学生、就活生など様々なステークホルダーに活用いただけるSDGsの啓発資料を発行しています。



小冊子  
「極東開発工業×SDGs」



学習資料  
「My SDGs—未来につなぐ私のアクション—」

○ SDGsパートナーシップ

様々な企業や行政、諸団体との連携をすすめ情報交換や協業を通じた課題解決に取り組んでいます。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)

2016年11月、極東開発工業は国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名しました。UNGCの分科会では、CSRに関わる最新動向や各社の取り組み事例の共有、企業のCSR推進を支援するツールの制作などに取り組んでいます。国連が求める「人権」「労働」「環境」「腐敗」に関わる10の行動原則を実践し、国際社会の一員として役割を果たしていきます。

WE SUPPORT



国連グローバル・コンパクト(UNGC)

関西SDGsプラットフォーム

2018年2月より、極東開発工業は「関西SDGsプラットフォーム」に参加し、様々な団体・組織との連携による持続的社会の構築に向けて取り組んでいます。

かながわSDGsパートナー

2019年4月、極東開発工業は「かながわSDGsパートナー」に認定されました。神奈川県や県内企業、団体と連携しSDGsの普及啓発活動やSDGsを通じた新規ビジネスの構築などにつなげていきます。

地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム

2020年5月より、極東開発工業は「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に参加しています。地方自治体や地域企業と連携を図り、地域の課題解決や新たなイノベーションの創造を目指しています。



## 2-2 中期経営計画

当社グループは2022年3月期を最終年度とする、中期経営計画 2019-21 ～To the Growth Cycle～ を策定しています。

### ○ 基本方針

#### 1 生産性の向上と利益体質の強化

収益基盤強化に向けた設備投資効果の最大化を図ります。

また、IoTやAIなどの活用をすすめるとともに、より高付加価値・高品質な製品・サービスを提供します。

#### 2 将来の収益源の創出

海外事業の収益基盤確立、新分野の事業確立などに向け、グループの既存リソースやアライアンス、M&Aを活用しつつ、積極的に経営資源を投入します。

#### 3 企業品質の向上と社会的価値の深化

安全・コンプライアンスの徹底を基本とし、さらに、働き方改革と従業員育成、事業を通じた社会貢献を推進します。

### ○ 中期経営計画進捗ハイライト

中期経営計画 基本方針	2019年度 実施概要	極東開発工業 SDGs宣言 (p.15参照)
1 生産性の向上と 利益体質の強化	○ 生産工程での省エネ・省資源を実現するための生産体制の整備 中小型ダンプ製缶ラインのリニューアル。 日本トレクス御津事業所の取得。 ごみ収集車の増産体制整備、パワーゲートの生産性改善。	【地域】 【環境】
	○ 安全で誰もが使いやすい製品を提供し続けるためのサービス体制の整備 株式会社エフ・イ・テックと株式会社FE-ONEを統合し、株式会社エフ・イ・オートを新設。 トレクスサービスセンター北海道の開業。(p.23参照)	【地域】 【人】
	○ 地域社会の発展に向けた製品の普及 環境事業：地元企業・炬メーカーと先行した営業活動を展開し、西天北五町衛生施設組合より使用済紙おむつ燃料化施設の新設工事、北海道札幌市より駒岡清掃工場の更新工事と運営事業を受注。 パーキング事業：京都府木津川市の市営駐車場の運営を受託。 (p.20参照)	【地域】

### 中期経営計画 基本方針

### 2019年度 実施概要

### 極東開発工業 SDGs宣言 (p.15参照)

#### 1 生産性の向上と 利益体質の強化

- IoT・AIなどの最新技術を使った製品の安全性や機能性の向上  
ごみ収集車の安全装置「KIES(キース)」を開発・発表。  
破碎危険物検知システムの研究開発。  
他社と協業し、K-DaSS (p.24参照) でのリアルタイムデータ収集によるモニタリングを開始。

【地域】  
【人】

#### 2 将来の収益源の 創出

- 収益基盤の確立  
タイ事業を再編し、他拠点の収益基盤確立にリソースを集中。
- グループの強みを活かした事業成長  
コンゴ民主共和国向けディーゼル機関車の完成・納車。(p.20参照)  
木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer(カンテナ)」を発売。(p.19参照)  
バイオディーゼル岡山株式会社よりバイオマス発電施設建設工事を受注。  
(p.20参照)

【地域】  
【環境】

#### 3 企業品質の向上と 社会的価値の深化

- 持続可能なものづくり  
工場におけるISO9001認証取得と品質マネジメントシステムの運用。  
ものづくりの品質向上と技能伝承を目的とした内製化の推進。
- 働きがいのある職場づくり  
「働き方改革プロジェクト」の始動。「女性活躍推進分科会」の新設。  
(p.32～p.33参照)

【地域】  
【環境】  
【人】

- 地域社会への貢献  
日本トレクスの本社においてコンビニエンスストアを開業(p.25参照)、音羽事業所・御津事業所においても設置型オフィス内コンビニを設置。  
地域イベントへの参画。(p.25参照)  
工場見学会への受け入れ。(p.26参照)

【地域】

# 2019トピックス



## 11 住み続けられるまちづくり 最長・最強のスクイズ式 コンクリートポンプ車で 持続可能なまちづくり

スクイズ式コンクリートポンプ車として、国内最長・最強スペック\*となる26m級のブームを搭載した「Hyper CP」スクイズクリート®PH80A-26Cを開発し、2019年10月15日より発売しました。都市部をはじめスペースに制限のある現場にも対応可能な高い機動力と、「残留コンクリートゼロ+低騒音」という高い環境性能を兼ね備えています。

※当社グループ調べ。



「Hyper CP」スクイズクリート®PH80A-26C

### 極東開発工業

特装事業部 生産本部 三木工場 第三設計課 植田 聖志 さん

コンクリートポンプ車はブームに装着した輸送管を通じて、生コンクリートを打ち込み場所まで圧送する特装车であり、様々な施工現場に対応するために高い機動性・操作性が求められています。PH80A-26Cは26mのブームを有しつつも、各ユニットのレイアウトを最適化して全長をコンパクトに抑えることで優れた機動性を確保しています。また主油圧ポンプの制御には、より細やかな調整が可能な電気式を採用し、最適な吐出量での打設をサポートします。



## 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 木質チップ乾燥 コンテナシステムで バイオマス発電を普及

木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer(カンテナ)」を開発し、2020年2月26日より発売しました。「Kantainer」は、簡単な操作でバイオマス発電の燃料となる木質チップを乾燥できるほか、脱着ボデー車への搭載が可能なため、乾燥前後の輸送と荷役作業にも対応しています。木質チップの製造をサポートできるトータルシステムを通じて、効率的な作業と高品質な木質チップの製造を実現しています。



木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer(カンテナ)」

### 極東開発工業

技術本部 開発部 前川 亘 さん

再生可能エネルギーとして注目されている木質チップボイラーやバイオマス発電の普及を加速させるため、燃料となる木質チップを効率的に乾燥させるシステムとしてKantainerを開発しました。設備廃熱などを熱源として使用することが可能なため、脱化石燃料化の推進にも貢献します。また、最近ではバイオマス燃料として再利用するための廃菌床の乾燥・減容・軽量化など木質チップ以外の材料への転用も期待されています。Kantainerを市場に展開することにより持続可能でクリーンなエネルギーの供給に貢献して参ります。



## 12 つくも責任 つかう責任 バイオガスプラントで 循環型社会へ貢献

極東開発工業は2015年よりバイオガスプラント事業に着手し、翌年には畜産系排水処理技術に豊富な経験を有する株式会社モリプラントを当社グループに迎えるなど、バイオガス関連事業を積極的に展開しています。2019年8月、DOWAグループのバイオディーゼル岡山株式会社より、食品廃棄物を原料とするバイオマス発電施設の建設工事を受注しました。



バイオマス発電施設 外観イメージ

### 極東開発工業

環境事業部 環境ソリューション部 畠中 幸彦 さん(中央)

我々が設計、建設しているバイオディーゼル岡山のバイオマス発電施設は、岡山市内外の食品工場やレストラン、スーパーなどから食品廃棄物を日量最大45トン受け入れ、破碎、選別、発酵処理を行い、メタンガスを抽出し発電します。発電容量は910kWで、そのうち約800kWを電力会社へ売電する施設です。食品廃棄物から発電を行うバイオガスプラント事業は、これまで処分されていたものを新たにエネルギー源として利用することで、循環型社会の形成と化石燃料の使用量削減に貢献できる事業です。



## 11 住み続けられるまちづくり コインパーキングで 地域の交通課題を解決

2019年10月1日、「P.ZONE 木津川市役所前」ほか、計6件のコインパーキングをオープンしました。木津川市役所前3か所とJR加茂駅前3か所の計6か所、総数



P.ZONE 木津川市役所前の様子

300台を超える車が駐車できます。今回コインパーキングの駐車管理システムを導入することで、不正駐車の排除や管理業務の効率化を目指しています。

### 極東開発パーキング

コインパーク本部 西部営業第二課 山本 一志 さん

2019年度は木津川市役所前のほか、商業施設「キューブラザ池袋」などの駐車場運営を開始し、年度末累計約600か所9,000台の駐車場を運営管理しています。コインパーキングはオープンして終わりではなく、変化する周辺環境に合わせて定期的な点検や利用料金の改定、場合によってはリニューアルを実施し売上の最適化を目指しています。今後はキャッシュレス決済の普及が予想されます。対応したコインパーキングを研究・検討し、これからも違法駐車問題の解決と交通インフラの整備に貢献していきます。



## 11 住み続けられるまちづくり ディーゼル機関車で 国内外の社会インフラを 構築

2020年2月13日、北陸重機工業はコンゴ民主共和国にてディーゼル機関車を納入しました。同国キンシャサ中央駅で開かれた納車式では、ディディエ・マゼンガ運輸通信大臣をはじめ、多くの同国政府関係者や日本大使館関係者などが出席しました。今回納入されたディーゼル機関車は、全長15m・重量72t・1,400馬力エンジン搭載の大型機関車で、今後は首都キンシャサと港町マタディ間の355kmで客車を牽引する車両として使用されます。

ディディエ・マゼンガ大臣は式典で「今回の協力がわが国の交通課題を解消していくための希望の光となる」と語られました。



納入されたディーゼル機関車

# 住み続けられる 「まちづくり」

## 4-1 各事業概要



当社グループは「特装車事業」「環境事業」「不動産賃貸等事業（パーキング事業他）」の3つのセグメントにおいて、国内外のあらゆる地域課題を解決する様々なサービス業務を展開しています。

### ○ 特装車事業

主として、「建設」「物流・省力」「環境」の3分野で活躍する特装車<sup>\*</sup>（はたらく自動車）を製造販売しています。また特装車の修理、アフターサービス、中古特装車の販売、鉄道車両の製造販売・修理なども行っています。

\*特装車…ダンプトラック、タンクローリ、ごみ収集車、トレーラ、ウイングボデーなど

### 市場環境と2019年度実績

近年、国内のトラック需要は比較的安定しています。その中でトレーラやウイングボデーなど物流関連の車両が順調に売上を伸ばしています。建設関連は東日本大震災後の復興需要で増加した後、その反動により近年は売上も低調でしたが徐々に底打ち感が見られます。このような複合要因のもと事業活動に注力した結果、2020年3月期の特装車事業の売上高は過去最高となりました。

特装車事業 実績推移 (単位:百万円)



### 2019年度トピックス

- ・ 新型2t車級回転板式ごみ収集車「バックマン<sup>®</sup>チルト」をフルモデルチェンジして発売
- ・ 新型コンクリートポンプ車「Hyper CP<sup>®</sup>スクイズクリート<sup>®</sup> PH80A-26C」を発売 ⇒p.19参照
- ・ ごみ収集車への巻き込まれ被害を軽減する、画像認識 AI 搭載の安全装置「KIES(キース)」を開発(2020年8月発売)
- ・ 木質チップ乾燥コンテナシステム「Kantainer(カンテナ)」を発売 ⇒p.19参照
- ・ 北陸重機工業製ディーゼル機関車をコンゴ民主共和国に納入 ⇒p.20参照
- ・ 中古車の整備と販売拡大のため連結子会社2社を統合し、「株式会社エフ・イ・オート」を設立(2020年4月)



バックマン<sup>®</sup>チルト

### ○ 環境事業

リサイクル施設<sup>\*</sup>や設備の製造販売、メンテナンス、運転・管理業務を行っています。

\*リサイクル施設…粗大ごみ処理施設、リサイクルセンター、ごみ固形燃料化(RDF)施設、バイオガスプラントなど

環境事業 実績推移 (単位:百万円)



### 2019年度トピックス

- ・ DOWAグループのバイオディーゼル岡山株式会社よりバイオマス発電施設の建設工事を受注(2021年4月操業予定) ⇒p.20参照
- ・ 宮城県 大崎地域広域行政事務組合より受注したリサイクルセンターが完成
- ・ 茨城県水戸市より受注した新清掃工場が完成
- ・ 長崎県佐世保市より受注したクリーンセンターが完成

### 市場環境と2019年度実績

国内の廃棄物処理施設に関する市場は、少子高齢化や地方自治体の財政難・統廃合などを背景に、大幅な需要の増加は見込めない状況です。しかし、国民の生活に不可欠な施設であるため、引き続き更新や再投資など一定の需要は維持できると予想されます。

2019年度においては、従来通り新規受注を確保すると同時に、複数の建設工事を並行してすすめました。受注物件の竣工時期の関係で2020年3月期の環境事業の売上高は前年度より

減少しましたが、施設の運転受託やメンテナンスなどのストックビジネスの分野は堅調に推移しました。



水戸市 新清掃工場

### ○ 不動産賃貸等事業 (パーキング事業他)

マンション向け立体駐車装置の製造・据付・販売、コインパーキングの運営を行っています。

一部の保有不動産の賃貸やメガソーラー発電所の運営、損害保険代理店業務なども行っています。

不動産賃貸等事業 実績推移 (単位:百万円)



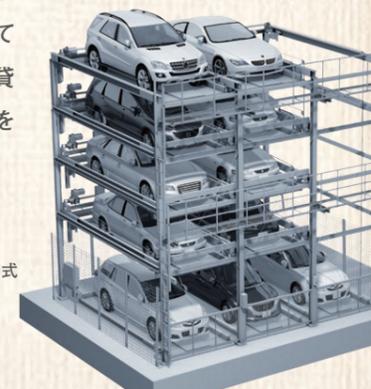
### 2019年度トピックス

- ・ 従来モデルより1段高い、地上5段昇降横行式の立体駐車装置を開発・納入開始
- ・ 京都府木津川市より受注したコインパーキング6か所の運営開始 ⇒p.20参照

### 市場環境と2019年度実績

近年、新築マンションにおける立体駐車装置の設置率は減少傾向にあるため、既設物件のリニューアルやアフターサービスを含めたメンテナンス分野に注力しています。コインパーキングの分野については、採算性を重視した事業運営を行うことで堅調な業績を維持しています。

不動産賃貸等事業全体としては順調に売上高及び利益を確保しています。一部の保有不動産の賃貸も安定収益として業績の下支えを担っています。



地上5段昇降横行式 立体駐車装置

## 4-2 顧客満足への追求

### ○ 品質向上と技能伝承

#### 社内プロジェクト「Q-Pro (Quality Project)」

2013年4月、社内プロジェクト「Q-Pro(Quality Project)」を発足し、品質向上に向けた様々な活動を推進しています。2019年度は「品質を上げるための仕組み作り」をテーマに掲げ、「製造委員会」「塗装改善プロジェクト」「受注システム改善プロジェクト」の3つの活動を中心に取り組みをすすめました。

2020年度は「不良品を作らない、流さない、受け取らない」をスローガンに3つの「ない」を徹底する「三ない活動」を推進し、全工場の全工程においてお客様目線の品質を定着させるための活動をすすめています。

#### 技能講習会・検定

製品の品質向上と技能伝承を目的に、各種業務に必要な技能の講習会や教育を実施しています。

また年に1度、溶接作業員全員(社内協力会社も含む)を対象に「溶接技能検定」を実施しています。受検結果で技能ランクが決定し、作業員が製品に溶接できる許可範囲が定められます。2019年度は、「塗装技能検定」も実施しました。



溶接技能検定の様子



お客様のニーズに応える製品・サービスを提供するために、技術・品質向上を目的とした教育やアフターサービスの充実など様々な取り組みをすすめています。

#### お客様の声への対応

より良い製品づくりをすすめるためにお客様相談窓口を設置し、製品やサービスの改善につなげています。

製品の不具合に関する情報(リコール・改善対策・サービスキャンペーン)はホームページ上でタイムリーに発信し、お客様に適切な対応をいただけるよう取り組んでいます。2019年度には、過去に発生したクレームの分析が簡単にできる「クレームデータベース」が完成し、大幅な工数低減を実現しました。このシステムを活用しさらなる品質向上を目指します。

#### 有限会社土井企業 代表取締役 土井 豊実様

当社は、極東開発グループと30年を超えるお付き合いをさせていただいており、コンクリートポンプ車愛用しております。その間バブル崩壊・リーマンショック・東日本大震災など世の中の荒波はありましたが、信頼のおけるパートナーシップを築きながら、互いに協力し、それらを乗り越えてきました。当社における歴史の中で最も活躍した極東開発グループの製品が、スクイズ式ポンプ車です。スクイズ式ポンプ車はランニングコストがかからず扱いやすいため、当社の売上貢献に非常に役立ちました。最近では使用するコンクリートの種類が変化することでピストン車が主流となっておりますが、こちらも同様に当社の発展に貢献しています。今後とも両社の発展のため、より良い製品作りを続けていただけることを願っております。

### ○ アフターサービスの充実

#### サービス拠点

お客様に製品を納品した後も、求められる作業環境下で製品を安定してご使用いただけるよう全国に約430か所



トレクスサービスセンター北海道



開所式の様子

の拠点を配置し、充実したアフターサービスを提供しています。2019年度は、直営サービス工場として「トレクスサービスセンター北海道」が新たに開所しました。

#### サービス講習会

製品のメンテナンスなどアフターサービスに関する講習会を、お客様と指定修理工場を対象に開催しています。講習の内容は大きく「取り扱い」「安全」「製品技術」に分けられます。

#### メンテナンスパック

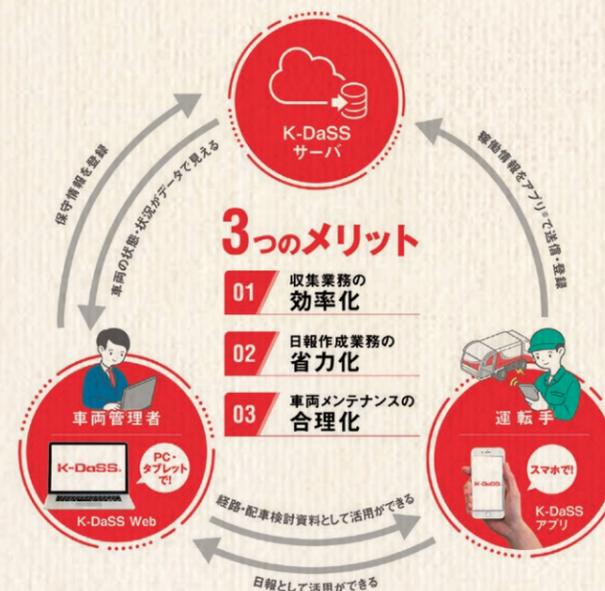
製品使用中に発生する突然のトラブルを未然に防止するため、定期点検や整備などを定額で行うサービス「メンテナンスパック」をお客様に提供しています。2017年度からはさらに内容を充実させた「パーフェクトメンテナンスパック」の販売を開始しています。

#### 車両管理支援システム「K-DaSS」

極東開発工業は、IoT基盤を利用した独自の車両管理支援システム「K-DaSS」を開発しました。

K-DaSSは車両の稼働データを記録・蓄積することで、連携させたアプリ・Webで車両の様々な情報がデジタル

#### ごみ収集車向け「K-DaSS」アプリ・Webイメージ



※K-DaSSの利用には、K-DaSS専用アプリのインストールが必要となります。

管理できるIoTシステムです。

K-DaSSの導入によって、お客様への適切なメンテナンスと製品の提案が可能になると同時に、お客様の日々の業務の効率化、省力化を実現しました。

### ○ お取引先様との関係づくり

#### 情報交換会

各工場において定期的にお取引先様との情報交換会を開催し、サービスや品質の向上につなげています。

情報交換会では、当社グループを取り巻く情勢の変化や生産に関する情報だけでなく、お取引先様からのご意見やご要望についても共有しています。

#### サプライヤー定期調査

公正に取引を行うために年1回、取引実績、信用状況、経営内容、技術水準などについてお取引先様の審査を実施しています。

#### 社内協力会社 表彰制度

製品品質に対する意識向上とモチベーションアップを目的に、「品質・労働安全衛生・業務改善」の観点で基準を設け、社内協力会社への表彰を行っています。

#### 極東開発工業

特装事業部 営業本部 直納部 直納課 浅野 貴教 さん

私が在籍している直納部直納課ではシャシ<sup>※</sup>メーカーに対する営業活動を行っており、完成車の受注活動と、架装するシャシに関する情報をシャシメーカーから入手することが主な仕事です。シャシメーカーと工場に立ち、双方の意見や要望事項を取りまとめ調整・展開することは容易ではありませんが、会社を動かしているのはやはり“人”です。何気ない問い合わせから始まった新規プロジェクト、お客様の悩みから生まれた新製品など、これまでも人と人とのつながりから始まった事業がたくさんありました。会社が大きくても小さくても、人と人との関係に誠意を持って対応することが、やがて大きな力になると思い、日々営業活動に動んでいます。

※シャシ…荷台を搭載しない状態のトラック。車台。



## 4-3 地域への参画

## ○ 地域との共生

## 地域環境保全

各拠点において、事業所周辺の地域清掃を行っています。極東開発工業の横浜工場においては、1991年から「やまとの環境をよくする会」に加入し地域の緑化や公害防止活動に取り組んでいます。

また極東開発工業の本社がある西宮市においては、市内企業の代表として「西宮市環境計画評価会」に参加し、市が実施している環境施策や取り組みについて評価・アドバイスをしています。



大山川清掃の様子

## 地域防災への取り組み

工場での火災から地域社会を守ると同時に、事業継続に支障をきたさないよう地域の自衛消防団へ参加しています。

極東開発工業の三木工場においては、地域の消防団と連携して消火活動を行う「企業連携消防団」へ加入しています。



企業連携消防団 訓練の様子



持続可能な地域社会の構築に向けて、製品を通じた地域づくり(p.21~p.22参照)だけでなく、あらゆる場面において地域課題の解決や地域への参画に取り組んでいます。

## イベントへの参画

地域行政や商工会議所などの地域団体が主催する様々な祭りやイベントに出展・協賛しています。

イベントへの製品出展などを通じて、地域の方々に「はたらく自動車」の社会における役割を理解してもらおうと同時に、地域の産業振興や地域活性化にも貢献しています。また日本トレクスでは毎年11月に本社敷地を開放し、従業員と家族、近隣住民の方々を招待する「明神祭」を開催し地域との交流を深めています。



やまと産業フェアの様子

## コンビニ運営

日本トレクス本社のある名鉄伊奈駅は駅利用者が少ないため近隣に店舗が少なく、住民の日々の買い物に課題がありました。

2019年6月、日本トレクスは本社敷地内にコンビニエンスストア「ローソン」をオープンしました。店舗は日本トレクスが運営し、



オープン当日の様子

般のお客様にもご利用いただいています。従業員への福利厚生としてだけでなく、暮らしやすいまちづくりの観点でも貢献しています。

## ○ 次世代の育成

## 工場見学会

ものづくりへの関心と地域産業への理解を深めてもらうために、地域の学生や従業員の家族などを対象とした工場見学会を開催しています。

極東開発工業の横浜工場では毎年、大和市内の小学5年生の社会科学習プログラムの一環として工場見学会を実施しています。2019年度は、名古屋工場で地域の小学生とその保護者を対象とした親子工場見学会を開催しました。



工場見学会の様子

極東開発工業  
特装事業部 生産本部 名古屋工場 管理課 高橋 有貴さん

2019年11月に地域の小学生親子を対象とした工場見学会を実施しました。

参加された皆さんは、生産ラインで鉄板を曲げる作業や青白い光を発する溶接作業を興味津々に見られ、組立工程では完成車を見て「大きい!」と迫力ある製品に驚いていました。

そして、パワーゲートの操作やごみ収集車でのごみ回収の記念撮影で実際にはたらく自動車に触れてもらい、最後は散水車が水を勢いよく撒きながら走るという圧巻のパフォーマンスで見学会を締めくくりました。

見学会を通じて特装車に興味を持っていただき、「将来、極東で働いてくれる子がきっとこの中にある…」と思うことがこの仕事のやりがいとなっています。



## インターンシップ、職場体験学習生の受け入れ

就業体験をしてもらうことで、学生の皆さんに職業観の形成やキャリアプランの構築などを学んでもらい、将来の就職活動で活かすことができるよう支援しています。

## 小学生ラジオCMコンテスト

2019年8月、日本トレクスは地元ラジオ局「エフエム豊橋」が主催する「第2回 小学生ラジオCMコンテスト」に参画しました。当イベントは、夏休み中の小学生を対象にラジオCMの原稿作りや収録を体験できるイベントです。日本トレクスの本社へ小学生親子を招待し、工場見学や会社説明を通じて会社のことを知っていただいた上で、その内容をラジオCMとして作成・収録してもらいました。参加していただいた親御様からは、「説明が分かりやすかった」「子どもも楽しめた」という声が寄せられました。

## 子ども向けコンテンツ「はたらく自動車」

ホームページや冊子で、子どもをターゲットとしたコンテンツ「はたらく自動車」を展開しています。当社グループの製品を視覚的にわかりやすく楽しく紹介し、毎年イラスト作品の募集なども行っています。

ホームページコンテンツ「はたらく自動車大研究」  
URL : <http://www.kyokuto.com/hataraku/>



## 製品模型・ペーパークラフト

2019年度、ホビー業界の老舗企業、京商株式会社の「京商オリジナルシリーズ」と「Samuraiシリーズ」に当社グループの製品がラインナップされました。

またキャノン株式会社が運営する「キャノン クリエイティブパーク」には、当社グループ製品のペーパークラフトが掲載されました。今後も掲載製品の拡充を予定しています。



京商 1/43 いすゞエルブ清掃車(東京23区)

京商オフィシャルホームページ  
URL : <http://dc.kyosho.com/ja/>



キャノン クリエイティブパーク  
URL : <https://creativepark.canon>



# 地球環境に配慮した「ものづくり」

## 5-1 環境関連データ

CO<sub>2</sub>排出量 (単位:t-CO<sub>2</sub>) 極東開発工業単体



原単位における CO<sub>2</sub> 排出量の改善率 (単位:%)



サプライチェーン全体におけるCO<sub>2</sub>排出量 (単位:t-CO<sub>2</sub>)

自社での燃料使用に伴う直接排出 (スコープ1)	5,451
外部から購入した電力や熱の使用に伴う間接排出 (スコープ2)	9,580
自社の事業活動範囲外での間接排出 (スコープ3)	86,578

太陽光発電実績 (単位:kWh)

福岡工場	1,759,003
旧東北工場	2,385,682
音羽事業所	524,432
合計	4,669,117

総廃棄物量 (単位:t) 極東開発工業単体



リサイクル率 (単位:%) 極東開発工業単体



VOC排出量 (単位:t) 極東開発工業単体



水資源投入量 (単位:m<sup>3</sup>) 極東開発工業単体



## 5-2 気候変動への中長期対応



中長期的な視野で気候変動に関するリスク評価を行い、目標達成に向けて取り組みを推進しています。

### CO<sub>2</sub>排出量削減 中期目標の設定

2025年度におけるCO<sub>2</sub>排出量：  
2012年度比 **マイナス21%**  
2030年度におけるCO<sub>2</sub>排出量：  
2012年度比 **マイナス25%**  
※単位は原単位(排出量/売上高)

工程の見直しなどをすすめ、持続可能なものづくりを通じて脱炭素社会の実現に向けて取り組んで参ります。

当社グループは従来から生産効率の向上に努め、より少ないエネルギー投入で最大のアウトプットを生み出す取り組みを推進してきました。

2013年度には、CO<sub>2</sub>排出量の削減だけでなく太陽光発電施設を3か所に設置し、再生可能エネルギーの普及にも貢献しています。引き続き、省エネ設備の導入や生産

### 気候変動リスクへの対応

当社グループは気候変動への対応を経営上の重要課題と認識し、関連するリスク(機会を含む)を評価・管理することで事業継続性を確保しています。

当社グループが取り組む気候変動リスクは、国際エネルギー機関(IEA)によるシナリオ、及びIPCC「第5次評価報告書」をもとに作成し、CSR室、関係部門ならびに事業継続に関する課題を取り扱う「BCP委員会」が評価したものを、トップマネジメントの承認により決定しています。

### 当社グループが取り組む気候変動リスク

リスクの分類		事業インパクト		取り組み
大分類	小分類	指標	考察	
移行リスク	炭素価格	支出 <sup>※1</sup>	・炭素税の導入により調達資材及びその輸送燃料に課税され、輸送コストが増加する。 ・炭素価格の高い国における製造コストが増加する。	・カーボン価格政策動向のモニタリング
	エネルギーミックスの変化	支出	・エネルギーミックスによる排出係数の変化がCO <sub>2</sub> 排出量削減目標に影響を及ぼすため、電力の需給契約の見直しとそれに伴う電力コストが増加する。	・省エネの推進 ※CO <sub>2</sub> 排出量削減中期目標 ・低排出係数の電力会社への切り替え
	平均気温の上昇	支出	・工場での熱中症など室温管理に関する対策コストが増加する。	・工場内空調設備の拡充 ・工場建屋の断熱対策
物理的リスク	干ばつなどの水ストレス	収益 <sup>※2</sup>	・異常乾燥による道路の砂塵抑制及び植樹の保守のための散水車需要が増加する。	・タンクローリー製造ラインの拡充
	異常気象の激甚化	支出 収益	・ゲリラ豪雨や台風などが多発することで在庫への被害や生産設備のトラブルが発生した場合、修正ならびに復旧コストが増加する。 ・委託先や供給網が被害を受けることで資材などの供給に異常があった場合、工場の稼働が停止または停滞する。 ・河川の氾濫や洪水被害などを受けた被災地向けの救援用給水車や災害ゴミの回収のための車両の需要が増える。 ・都市の防災に関するインフラ整備の拡充に伴い土木系特装車の需要が増加する。	・自社及びサプライチェーンにおけるリスクアセスメント ・工場内への水の侵入対策 ・タンクローリー製造ラインの拡充 ・中小型ダンプ製造ラインのリニューアル ・脱着式コンテナの製造ラインの拡充
生物多様性の変化	支出	・未知の病原菌によるパンデミックなどにより事業活動が停止または停滞することで、売上高及びステークホルダーへの信用が低下する。	・間接部門を中心としたテレワークの導入	

※1 支出…収益にマイナスの影響が出る ※2 収益…収益にプラスの影響が出る

### 5-3 脱炭素社会に向けて

#### ○ 設備・工程における省エネ

##### 施設内照明のLED化

工場や事業所内照明のLED化をすすめ、消費電力の削減に取り組んでいます。極東開発工業の横浜工場・名古屋工場・福岡工場では、工場の天井照明のLED化が完了しました。

##### テレビ会議・WEB会議

極東開発工業では、本社・工場・営業拠点において「テレビ会議装置」を導入し、出張などの移動によって発生する温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

コロナ禍への対応により各拠点において活用の機会が増え、増設も行いました。また、WEB会議の活用もすすめています。



テレビ会議の様子

##### 生産工程における効率化

段取りや手直しなどのムダな作業を減らすことで、資源消費の抑制に努めています。取り組みの一つとして、2019年度から低スパッター溶接機の積極的な採用をすすめました。この導入により、従来多くの時間を要していた溶接後の仕上げ作業の工数を大幅に削減することができました。

##### 作業環境の改善

夏場の生産現場における暑さ対策として、工場の屋根や壁、地面の遮熱、ミスト噴霧装置及び空調機の設置などをすすめています。働きやすく安全な作業環境の整備により、作業効率の向上を図ります。



#### 次世代自動車の導入

社有車の更新時に、環境負荷の少ないハイブリッド車や電気自動車を選定しています。

#### ○ 再生可能エネルギーの活用

##### 太陽光発電

極東開発工業の福岡工場、旧東北工場の敷地、日本トレックスの音羽事業所の3か所において、太陽光発電を行っています。



旧東北工場敷地内の太陽光発電パネル

極東開発工業  
管理本部 総務部 総務課 田中 悠太郎さん(左) 土屋 浩美さん(右)

太陽光発電事業は2013年3月から始まり、現在3か所の発電所では、一般家庭の年間電気消費量 約850世帯分<sup>※</sup>にあたる電気を年間に発電しています(2019年度実績:p.27参照)。音羽事業所では、太陽光発電パネルを屋根に設置したことで室温が約4度低下するなど、遮熱による相乗効果も得られています。冷暖房を使用しない春や秋には、地域の電気使用量より発電量が上回るため「出力制御」が実施されるなど大変な点もありますが、今後も脱炭素社会の実現に貢献できるよう、適切なメンテナンスに努めて参ります。



※4人家族の一般家庭が使用する平均年間消費電力量約5,500kWhで算出

#### ○ 気候変動に関わるパートナーシップ

「脱炭素化を目指す世界の最前線に日本から参加する」という宣言に賛同し、2019年度から「気候変動イニシアティブ(JCI)」に参加しています。また、2019年9月から「地エネと環境の地域デザイン協議会」に加盟し、エネルギーや環境への取り組みを推進する地域団体や企業との協業や新規ビジネスの構築を目指しています。

### 5-4 循環型社会に向けて



事業活動で発生する廃棄物削減とリサイクル率向上に努めています。

※製品を通じた循環型社会への貢献については、p.21~p.22参照。

#### ○ 廃棄物の削減

極東開発工業では従来からゼロエミッションを掲げ、工場で排出されるスクラップや梱包材などの廃棄物の99%以上をリサイクル原料として再利用しています。

#### ○ 製品における3Rの推進

製品設計において、部材の重量軽減や再生品由来の材料を使用するなど3R(リデュース・リユース・リサイクル)に関する独自の評価基準を設定しています。また、一般社団法人 日本自動車車体工業会が制定する「3R判断基準ガイドライン」の基準を満たす製品については「環境基準適合ラベル」の貼付を推進しています。ホームページ上には製品の解体マニュアルを掲載し、解体業者が安全かつ確実に部品をリサイクルできる体制を整備しています。



環境基準適合ラベル

### 5-5 自然共生社会に向けて



製品のバリューチェーン上で生じる環境汚染を把握し、発生を抑制しています。多様な生物が共存する自然共生社会の実現に向けて植林活動なども行っています。



#### ○ エシカルなものづくり

##### 化学物質の管理

SOC(カドミウム・鉛・水銀・六価クロム)を使用しない、自然環境に配慮した製品づくりをすすめています。SOCフリーの製品については、製品カタログやパンフレットにマークを付けて表示しています。

##### CSR調達

自社の利益だけでなく、環境や社会全体に与える影響に責任を持った事業活動を推進しています。サプライチェーン全体を通じて企業の社会的責任を果たすために、環境や人権に配慮した「CSR調達ガイドライン」を制定し、取り組みをすすめています。

#### ○ 植林活動

日本トレックスでは、2004年5月よりマレーシアのサバ州にてアカシアの植林活動を行っています。2020年からは自社植林をしたアカシアの丸太を床板製品として使用しています。今後もマレーシアの現地の方々と友好関係を築くと同時に、限りある森林資源との共生を推進します。



植林したアカシア



自社植林のアカシアを使用した製品

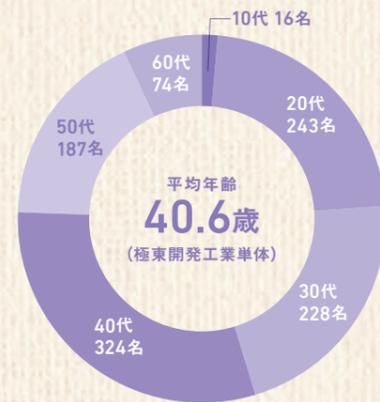
# 一人ひとりが尊重される 「社会づくり」

## 6-1 人材関連データ

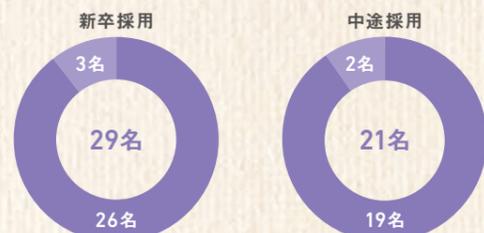
従業員数 ●男性 ●女性  
※正社員・契約社員の合計人数  
※出向者は出向先に含む



平均年齢



新卒・中途採用者数 (極東開発工業単体) ●男性 ●女性



育児休暇取得人数

14名  
(極東開発工業単体)

月平均残業時間

16.0時間  
26.8時間(極東開発工業単体)

※正社員・契約社員・パートの実績  
※海外拠点は制度が異なるため実績に含まない

通信教育受講者数

412名  
276名(極東開発工業単体)

※同一受講者が複数講座受講している場合、二重でカウント

再雇用人数

48名  
(極東開発工業単体)

外国人技能実習生数

64名  
(極東開発工業単体)

障がい者雇用人数、雇用率

22名 2.35%  
(極東開発工業単体)

有給休暇平均取得日数

11.2日  
11.4日(極東開発工業単体)

※正社員・契約社員・パートの実績  
※海外拠点は制度が異なるため実績に含まない

新卒離職率

6%  
(極東開発工業単体)

※2017年度新卒採用者の就職後3年以内離職率

労災発生件数

54件  
21件(極東開発工業単体)

## 6-2 働きがいのある職場づくり



誰もがやりがいや働きがいを実感でき、いきいきと働き続けられる、多様性にあふれた職場づくりをすすめています。

### ○ワーク・ライフ・バランスの実現

#### 社内プロジェクト「働き方改革プロジェクト」

2019年度より、社内で「働き方改革プロジェクト」を立ち上げ、全社的な業務効率や生産性の向上、職場環境の改善に取り組んでいます。今後も引き続き、従業員満足度向上のための活動を推進していきます。

極東開発工業  
管理本部 総務部 東京管理課 西本 浩人 さん

活動初年度はムダ・ムラ・ムリなどに関する社員の生の声のもとに、業務改善に向けた課題分析を行い、基盤となる意識改革や各種ルール作りに取り組む一方で、新型コロナウイルス対策の一環としてテレワークの推進などの改革をすすめました。また、「女性活躍推進分科会」も立ち上げて職場環境改善にも取り組んでいます。2年目の2020年度はこれらの取り組みの定着ならびにさらなる推進を図るとともに、中長期的なテーマを着実に実施して参ります。今後も社員が効率良く、いきいきとして、誇りを持って働くことができる企業づくりに向け、変革の一翼を担っていききたいと思えます。



### フレキシブルな勤務形態

従業員にやりがいを持って長く働いてもらうために、育児や介護による短時間勤務や休暇に関する制度を整えています。

2020年4月からはフレックスタイム制を導入しました。業務時間を効率的に配分することで、より多様な働き方に対応しています。

また、新型コロナウイルスの感染防止対策としてテレワークや時差出勤を取り入れています。

### ○多様な人材活用

#### 障がい者雇用の促進

当社グループでは障がい者雇用を積極的にすすめています。障がい者の方が長期的に自分らしく働ける職場づくりを目指して、2018年5月に「きよくとう柏ファーム」、2019年12月に「きよくとう八千代ファーム」を開設しました。農園で栽培した野菜は、各工場・事業所の食堂で調理して提供されています。



作業の様子



栽培した野菜を使ったメニュー

#### 外国人技能実習生の受け入れ

各工場において外国人技能実習生を受け入れていきます。実習生がものづくりの技能を学び、母国に持ち帰ることで開発途上国の経済発展に貢献しています。

## 女性活躍推進

極東開発工業では女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」を掲げ、女性比率の引き上げと女性が活躍できる職場環境の整備をすすめています。

また2019年度から、「働き方改革プロジェクト」の分科会として「女性活躍推進分科会」を設置しました。女性社員を対象にアンケートを実施し、制服や職場、働く環境などについて改善をすすめました。

極東開発工業  
管理本部 経営企画部 香川 真子 さん

「女性活躍推進分科会」は誰もがやりがいをもって長く働ける職場づくりを、女性社員の目線で推進するために発足しました。2019年度は意見収集を目的に、女性社員を対象としたアンケートを実施しました。その結果、制服や職場の設備、働く環境などについて多くの意見が集められ、着手できるところから順次取り組みをすすめています。今後も社員の声やアイデアをもとにさらに取り組みの幅を広げ、より良い職場づくりに向けて活動して参ります。



## 〇 やりがい・働きがい向上への取り組み

## 人事制度

従業員一人ひとりが、自身に求められる期待や役割を自発的に果たせる人材に成長できるよう、人事制度を運用しています。また、従業員自身のキャリア形成の意向や希望などを申告する機会を定期的に設けています。

## 能力開発制度

職務に必要なスキルを身につける「階層別研修」と、個々人のキャリア形成を支援する「キャリア研修」を実施し、従業員が自ら能力開発していく基盤づくりをサポートしています。

従業員の能力とモチベーション向上を目的に「自己啓発通信教育奨励制度」や「資格奨励金制度」などを設けています。通信教育では優秀修了者への費用の全額負担、資格奨励金制度では奨励金の支給を行っています。



入社2年目BSR(ビジネス・シミュレーション・ラリー)研修の様子



通信教育の冊子

## 従業員表彰制度

当社グループでは毎年、会社の発展に大きく貢献した従業員を対象に様々な表彰を行っています。

「業績貢献」「業務効率の改善」「発明・技能継承・サービス品質や安全衛生への貢献」など様々な分野での表彰を、グループ各社だけでなく協力会社の従業員も含めて実施しています。

極東開発工業  
技術本部 開発部 尾原 歩希 さん

「ハイパーシート用コントローラ」の開発で、2019年度発明賞を受賞しました。

本製品はダンプトラックの荷台(ボデー)に取り付ける土砂飛散防止用シートを自動で開閉する装置で、今回が初めての内製化となりました。シートを押さえ付ける際のメカとボデーへの負荷軽減と、突風などによる誤停止の抑制を実現するには状況に応じたきめ細かい制御を行う必要があります。試作機を製作して様々なテストを行い、改良や評価を重ねることで、この度独自の電流制御回路を持った「ハイパーシート用コントローラ」を完成させることができました。



## 6-3 従業員の健康管理



従業員全員が長く健康に働き続けられるよう、労働組合及び健康保険組合と連携し、健康経営に向けた取り組みをすすめています。日本トレクスは、「健康経営優良法人2020」に認定されました。(p.12参照)

## 〇 労働安全衛生

各拠点において安全教育や安全パトロールなどを実施し、無事故・無災害に向けた取り組みをすすめています。2018年度から、実際の作業で起こり得る災害を疑似的に体験できる装置を用いた「安全体感教育」を構内で働く全従業員に実施しています。

2020年度からは、体感装置を日本トレクスのウイングバンに搭載した「安全作業研修車」により、場所を選ばずフレキシブルに教育を行えるようになりました。



安全作業研修車



研修車の内部

## 〇 心と体の健康

## 健康に関する教育・サポート

従業員の健康をサポートするために、極東開発健康保険組合と協同し各種セミナーやウォーキングキャンペーンを実施しています。2019年12月には外部講師を招き、「女性のカラダとケア」をテーマに女性従業員向けのセミナーを開催しました。福利厚生として、提携スポーツクラブの法人価格での利用も推進しています。

極東開発健康保険組合  
葛西 史子 さん(管理栄養士)

会社、組織の活力や生産性向上の基盤となるのは、やはり従業員とご家族の健康です。極東開発健康保険組合では、特定健診・特定保健指導や各種セミナー、広報誌を用いての情報提供、人間ドックやがん検診、インフルエンザ予防接種補助など様々な保健事業を提供しています。最近では、禁煙キャンペーンの通年実施を開始しました。コロナ禍のこともあり、この機会に禁煙にチャレンジする方が増えることを願っています。健保職員一同応援しています!



## メンタルヘルス不調・ハラスメントの防止

ストレスチェックや面談を行い、メンタルヘルス不調を発生させない職場づくりをすすめています。

ハラスメントの発生予防に向けた取り組みとして、管理職を対象に専門講師による「ハラスメント研修」を行っています。また万が一、法令違反や不正行為などが発生した場合に備え、職場の倫理違反に関する通報・相談窓口として「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。匿名性を確保し、相談者が不利益を被らないフォロー体制を整備して運用しています。

## 6-4 ものづくりにおける人権配慮



バリューチェーン上の全てのフェーズにおいて、人に優しいものづくりをすすめています。

※CSR調達についてはp.30参照

## 〇 紛争鉱物の排除、輸出品の安全保障

紛争地域における人権侵害や環境破壊、不正採掘などの原因、さらには武装勢力の資金源となる紛争鉱物(すず、タンタル、タングステン、金)を原材料に使用しない製品づくりをすすめています。また国際的な平和と安全を維持するために「安全保障輸出規定」を定め、物品の輸出や技術の提供の際に適用しています。



この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

社名・ロゴなどは各社の商標または登録商標です。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号  
極東開発工業株式会社 管理本部 CSR室

TEL:0798-66-1417 URL:<http://www.kyokuto.com/>

